

附属幼稚園の英語指導における
保護者の意識調査と考察

How the Guardians Appreciate Preschool English Class
in Affiliated Kindergarten

中山 千章
Chiaki NAKAYAMA

廣瀬 久子
Hisako HIROSE

1 はじめに

今では、ほとんどの保育園や幼稚園において、英語の時間が設けられている。指導の方法は積極的に英語に力を入れている園と、そうでない園では大きな違いがあるが、いずれにしても、多かれ少なかれ、ほとんどの園において英語の指導が行われており、まったくしていないというのはめずらしいともいえる。

どうして就学前の子どもに、英語の指導が行われるのかというと、大きく分けて二つの理由がある。一つは、日本を含め世界の情報化・グローバル化という時代の流れによる影響であり、もう一つは、そのような国際環境を考慮して、子どもになるべく早い時期から英語の教育を開始させたいという保護者の強い要望からである。

つくば国際短期大学附属幼稚園でも、同様の理由で平成13年から継続して英語指導を行っている。英語の指導は一週間に一回のペースで行われ、一回の時間はクラスによって異なるが、15分から25分程度である。内容については、絵カードを用いて動物や果物の名前を覚えたり、踊りや歌、ゲーム等で身体を思い切り動かしたり、絵本を読んだりしながら英語を楽しんでいる。時間的には長くはなく、勉強というよりは、むしろ英語を使って遊んでいるといった方がより適切であろう。英語の時間は、週に一回だけであるが、園児たちはこの時間をけっこう楽しみにしている。調査をしたわけではないが、子どもたちの発言や指導をしているときの教室の雰囲気、笑顔や歓声などから窺える。

保育園・幼稚園の英語教育については、今後ますます保護者からの要望や期待の高まりが予測される。というのは、今年(平成20年)の3月に文部科学省の中央教育審議会が「使える英語の習得」を見据え、小学5年生からの必修化の発表が背景にある。それによると、小学校における英語は来年(2009年)から移行措置として各学校の判断により授業を開始してもよいこととなった。なお、全面実施は2011年からである。

小学校で英語教育が始まれば、当然のことながら、幼稚園や保育園においても、今まで以上に英語に熱心になる保護者の増加は容易に想像できる。お隣の韓国の例によると、1997年より小学校3年生から、英語を正規科目とした結果、幼児を対象とした英語学院が次々と開設された。また、ほとんど全ての幼稚園が、園児募集のために英語プログラムを組んだとのことである。韓国の例を挙げるべくもなく、日本でも英語の教育熱が起こりそうな気配である。

2 目的

つくば国際短期大学附属幼稚園で平成13年度から「英語の時間」を設けて、幼稚園児を対象にした英語の指導を5年間継続して行っている。英語の指導を行ってはいらぬもの、今日まで一度も保護者からの意見を聴取したことはなかったし、保護者からも園からも指導に関しては今まで何の要望もなかったもので、自分たちが考えた方法で今日まで授業を続けてきた。

授業の内容については上でも述べているが、英語は楽しくて、面白いものだと子ども達に意識付けるために、読み書きを使った方法は全く採らないで、歌を歌ったり、身体を動かしたり、絵本を読んだりすることに重点を置いた。また、生活に身近なものの名前や、簡単な挨拶を言えるようにし、少しでも英語に慣れ親しませる方法を探ってきた。

来年度（平成21年）からは、小学校での英語教育の必修化の移行措置により、多くの小学校において5・6年生を対象とした正規の授業が始まるだろうと考えている。よって、この機会に附属幼稚園で実施している英語の指導のありかたについて、次の2項目を明らかにしたい。一つは、保護者が、どのように幼児の英語について考えているのか、またはどのような授業を期待しているのか。もう一つは、英語の指導を続けていくにあたって、今後どのようにクラスを運営していけばいいのか、という2点である。

保護者からの意見や要望をよく理解し、把握することにより、幼稚園での英語指導もよりよいものになると考えている。

3 方法

附属幼稚園児166名の保護者に対して、質問用紙を使った調査方法をとる。質問用紙は平成20年10月の初めに配布し、回収は10月末とした。

回収数は121で、回収率は72.9%であった。また、幼児の年齢の内訳は6歳児が19名、5歳児が33名、4歳児が45名、3歳児が24名であった。

アンケートの質問は全部で10項目になるが、質問1は子どもの年齢であり、質問2から質問9までの回答方法は選択肢のなかから選ぶようになっている。ただし、質問5、質問7、質問9については複数選択可としている。質問10についての回答方法は自由記述である。なお、質問1から質問8までの質問内容は、保護者が幼稚園の英語に対してどのように考えを持っているかを訊いている。質問9は現在の学校英語（中学校や高等学校で教えている英語）に関する質問となっている。さらに各質問には保護者から自由な意見を訊く目的で、自由記入欄が設けてある。なお、詳しい質問項目は後ろに記してある。

※アンケート用紙が付録として添付してある。

4 結果と考察

アンケートの最初の質問は保護者の子どもの年齢である。その内容は全体の回収数121の内、4歳児が37.2%で一番多く占めており、次に5歳児、27.3%、3歳児、19.8%、6歳児、15.7%と続いた。幼児を

表1 年齢別グループ

年齢	3歳	4歳	5歳	6歳	合計	平均年齢
人数	24	45	33	19	121	4.4歳
%	20	37	27	16	100	

のグループと5・6歳のグループに分けてみると3・4歳のグループは69名で、57%を占めており、5・6歳のグループは52名で43%であった。なお、幼稚園児の平均年齢は4.4歳になっている。年齢をグループ別に分けたのは、子どもの年齢によって親の英語に関する意識が変化があるかどうかを確認する意味からである。

質問2は、幼稚園の英語指導の必要性について訊いたおり、aの「必要である」から、eの「必要ない」まで、5段階に分けてある。ちなみに、平均を算出するにあたっては、aは数値の5、bは4、cは3、dは2、eは1に置き換えて計算してある。

全年齢（表2）で見えてみると、bの「どちらかといえば必要」が42.1%で一番多く、次に、aの「必要である」が38.0%である。cの「どちらでもよい」が15.2%で、dの「どちらかといえば必要ない」は2.2%である、eの「必要ない」にマークした保護者は皆無であった。

幼稚園の英語は現在のグローバル化した社会環境のせいかな、ほとんどの保護者が英語の必要性を感じていることが分かる。合計平均（表2）でも4.2という高い数値である。

3・4歳グループと5・6歳グループ（表2-1）の比較をみてみると、どちらのグループも英語指導の必要性は強く感じているのだが、5・6歳グループのほうが、表2-1をみると、aにbを足した数値が84.7%と（3・4歳グループは76.8%）、多少高いところから、子どもの年齢が上がるにつれ、英語の必要性も高まってくるともいえる。しかし、両グループにおける平均値を見てみると、グループによる差は0.1だけであり、年齢別グループによる差はほとんど無いということにもなる。

自由記入欄から主な意見を取り上げてみると、「保育時間内にて英語指導があるので入園することにした」、「勉強というより遊び、またはゲーム感覚での英語であれば良い」、「これからも継続して欲しい」、「小学校の英語教育のため、幼稚園から始めた方がいい」、「クラスの友達と保育時間内で学べば、抵抗なく楽しく学べるのではないか」、「幼稚園での英語が必要かどうかはよく分からないが、幼児期から外国語に触れる機会があることは良い」、「英語と関わりあう場があることは良い」などである。おおむね、幼稚園での英語教

表2 幼稚園での英語の必要性について

	a	b	c	d	e	合計	平均
3歳	6	9	7	2	0	24	3.8
4歳	20	18	7	0	0	45	4.3
5歳	12	15	6	0	0	33	4.2
6歳	8	9	1	1	0	19	4.3
合計	46	51	21	3	0	121	4.2
%	38.0	42.1	17.4	2.5	0	100	

表2-1 幼稚園での英語授業の必要性について年齢グループ別

	a	b	c	d	e	合計	平均
3歳・4歳	26	27	14	2	0	69	4.1
%	37.7	39.1	20.3	2.9	0	100	
5歳・6歳	20	24	7	1	0	52	4.2
%	38.5	46.2	13.5	1.9	0	100	

育を実施していることに対して反対意見はなかったが、「日本語の読み書きを理解してから、英語を始めたほうが良い」とか、「子どもがテレビで子供用英語番組を放送していても、興味を示さない」などといった、あまり英語指導の必要性を認めたくないような意見も少数ではあるがあった。

質問3は幼稚園児の英語の開始時期について、何歳から始めるのが良いかという問いである。選択肢はaが「3～4歳児から」、bが「4～5歳児から」、cが「5～6歳児から」、dが「3歳未満から」、eが「幼稚園では英語は始めないほうが良い」となっている。

全年齢(表3)で見ると、aの「3～4歳児から」を選んだ人が、78.0%で一番多く、次はbの「4～5歳児から」であったが、bを選んだ人は9.3%であった。dの「3歳未満から」も8.5%あり、保護者のなかには、開始時期は早ければ早いほどよいという意見もあった。しかし、幼稚園での英語教育は、幼児の言葉の発達や幼稚園の入学時期などを考慮しても「3～4歳児から」が最も妥当な年齢と考える保護者が多いのだろう。ちなみに、eの「幼稚園では英語は始めないほうが良い」といった意見もあった。

表3-1の年齢のグループ別では、どちらのグループも「英語の開始時期」についての差はほとんど見られなかった。ただ、5・6歳児のグループのほうが、意見にばらつきがみられる。年齢が5歳や6歳になると、すでに幼稚園で英語教育を2～3年受けているので、保護者の個人的経験からより早いほうが良いとか、遅いほうが良かったかな、などと考えるようになるのかもしれない。

自由記入欄からの例では、保護者によって意見はまちまちであるが、「早ければ早いほうが良い」、「英語の音声を耳に慣れさせるには早いほうが良い」などと、子どもの臨界期を意識してか、早期教育を強調する意見がある。その一方で、「ある程度日本語で会話ができるようになってから」、「英語をコミュニケーションの手段として捉えるなら、開始の年齢にとらわれる必要はない」、「外国人を嫌がる子もいるので、3歳ぐらいからが良い」などと、開始年齢に、あまりこだわらない意見もあった。また、「日本語の読み書きが出来るようになってから英語を開始したほうが良い」という、幼稚園の英語指導に必ずしも賛同していないような意見も一件だけあった。

表3 幼稚園の英語の開始時期

	a	b	c	d	e	合計
3歳	22	0	0	1	0	23
4歳	31	7	1	5	0	44
5歳	25	2	3	2	1	33
6歳	14	2	0	2	0	18
合計	92	11	4	10	1	118
%	78.0	9.3	3.4	8.5	0.8	100

表3-1 幼稚園の英語の開始時期 年齢グループ別

	a	b	c	d	e	合計
3歳・4歳	53	7	1	1	0	62
%	85.5	11.3	1.6	1.6	0.0	100
5歳・6歳	39	4	3	4	1	51
%	76.5	7.8	5.9	7.8	2.0	100

質問4は幼稚園の英語の授業時間についての項目である。現在は指導しているクラスによって時間に差があるが、短いクラスで15分、長いクラスで25分程度である。選択肢はaの「少ないので多くしてほしい」から、eの「無いほうが良い」の5段階に分けてある。

全年齢（表4）で見ると、bの「今より幾分多いほうが良い」が一番多く、次にcの「今のままで良い」が続く。少ない方がいいという意見はどの年齢グループにおいてもほとんどなかった。平均点（合計）で見ても、

3.7で、ほぼ「今より幾分多いほうが良い」になっている。表4の年齢による差はほとんど見られなかった。

「今より幾分多いほうが良い」といった意見が多かった理由としては、幼稚園の15分～25分の指導では効果が無いと思つてのことかもしれないし、もしくは、民間の幼児向け英語教室（40分～60分ほどの授業時間）との比較からきているのかもしれない。次に、「今のままでよい」の意見が多かったのは、幼稚園での英語は、勉強ということよりも歌ったり、踊ったりして、楽しむことに重きをおいているなら、今のままで十分であるとの判断であろう。

表4-1の年齢グループ別の比較では、平均値ではほとんど差はなかったのだが、パーセンテージ的には5・6歳グループのほうが3・4歳グループより、aの「少ないので多くして欲しい」を選んでいる親が6%ほど多かった。年齢が上になると、小学校入学及び小学校での英語の必修化のことなどがあり、少しでも英語に慣れさせておきたいと考えている保護者が多いといえる。

自由記入欄を見てみると、「もっと授業回数を多くして欲しい」、「15分では少なすぎる」、「最低でも、30分間くらいは授業をして欲しい」、「1日5分でもいいから、毎日したほうが良い」といった時間、もしくは回数を増やして欲しいとの意見が多く、「今のままの時間で良い」との意見は少数であった。最も、自由記入欄に意見を記入する保護者は英語や早期教育に対する関心が強いし、英語の時間にたいする要望や期待感も強いといえる。

質問5は、幼稚園ではどんな英語教育をするのが良いかという問であり、複数選択可である。選択肢のaは「歌ったり、踊ったりなど、遊びを中心とした英語」で、bは「英会話を中心とした英語」、cは「日本語を使わない英語」となっている。

表4 英語授業の時間

	a	b	c	d	e	合計	平均
3歳	4	7	11	1	0	23	3.6
4歳	5	23	17	0	0	45	3.7
5歳	6	18	8	0	1	33	3.8
6歳	4	5	10	0	0	19	3.7
合計	19	53	46	1	1	120	3.7
%	15.8	44.2	38.3	0.8	0.8	100	

表4-1 英語授業の時間 年齢グループ別

	a	b	c	d	e	合計	平均
3歳・4歳	9	30	28	1	0	68	3.7
%	13.2	44.1	41.2	1.5	0.0	100	
5歳・6歳	10	23	18	0	1	52	3.8
%	19.2	44.2	34.6	0.0	1.9	100	

全年齢（表5）において、圧倒的に多かったのが、aで、歌や踊りを中心とした英語が多く、次に多かったのがbで英会話を中心とした英語教育である。aを選択した保護者は英語に慣れ親しむことが大切であると考え、bを選択した親はこれからの英語教育は使える英語の習得、つまり英語でのコミュニケーションを可能にさせたいとの考えであろう。dの「アルファベットや基礎単語を教える英語」を選んだ保護者は約13%であった。これを選んだ保護者が最も少なかったのは、幼稚園

での英語は文字としてのアルファベットや英単語を覚えるよりも、音声を中心におき、歌ったり、踊ったり、英会話したりするほうがより大切であると考えている保護者のほうが圧倒的に多いからであろう。

年齢のグループ別（表5-1）で見ると、3・4歳グループと5・6歳グループとの差はaとbにおいて、5・6歳のグループの方がaを選んだ割合が11%近く多く、bを選んだのは、逆に9%近く少なかった。このことは3・4歳グループの保護者のほうが英語教育への期待が大きいことを表しているともいえる。5・6歳グループの保護者においては、すでに幼稚園で1～2年の英語の経験があるし、子どもの英語に対しての関心・興味も理解してきているので、幼稚園での英語は楽しんでいるだけで十分であると思っているのかもしれない。しかし、どちらのグループにしてもaが圧倒的に多く、基本的には子ども達が英語で遊んで、楽しんでいれば十分なのである。

自由記入欄から主な意見を取り上げてみると、3・4歳児においては、「遊びを通して自然に取り組めるように」、「英語の歌を聞かせればよいと思う」、「ネイティブに指導して欲しい」、「楽しいことが一番大切」、「自然に正しい発音が身に付いたら良い」などの述べており、5・6歳児においては、「遊びを中心として、英語に苦手意識を持たせない」、「集中するのが難しい年齢なので、いろいろと組み合わせながら英語を楽しめれば良い」、「英語を理解させるのではなく、遊び感覚で、抵抗がないように英語に親しみを持って欲しい」、「発音が大事である」、「英会話や単語を覚えるより、歌ったり踊ったりしながら、自分の話している言葉とは違う言葉の響きを感じるこのほうが楽しいし、効果的である」などの意見であった。

保護者の意見を集約し、簡単に述べると、幼稚園に望んでいるのは、子ども達が英語を理解し

表5 英語教育の方法について

	a	b	c	d	e	合計
3歳	22	12	7	5	0	46
4歳	43	22	14	13	0	92
5歳	32	9	10	6	0	57
6歳	17	4	2	4	0	27
合計	114	47	33	28	0	222
%	51.4	21.2	14.9	12.6	0.0	100

表5-1 英語教育の方法について 年齢グループ別

	a	b	c	d	e	合計
3歳・4歳	65	34	21	18	0	138
%	47.1	24.6	15.2	13.0	0.0	100
5歳・6歳	49	13	12	10	0	84
%	58.3	15.5	14.3	11.9	0.0	100

覚えるということではなく、英語を楽しく面白く感じながら、英語の響きや、英語に親しみを感
じてくれば良いというものである。

質問6は、子どもが幼稚園に入って
英語に興味・関心を持つようになった
かを訊いている。aの「とてもそう思
う」から、eの「全くない」までの5
段階評価である。

全年齢(表6)において、一番多
かったのはbの「少しそう思う」であ
り、回答者の55%がそう思っているわ
けであり、aの「とてもそう思う」の
15%を合わせると、70%になる。幼
稚園での英語の教育が、多少は子ども達
に英語や外国への関心を引き起こした

といえよう。平均値で見ると、年齢が高くなるにつれ、興味・関心度が高くなっている。子ども
達の理解力が年齢とともに増すからであろうか、それとも子どもの年齢が上がるにつれ、親の教
育意識が高まってくるからであろうか。

表6-1の年齢グループ別で見ると、5・6歳グループのほうが3・4歳のグループよりも、
興味・関心度が0.3ほど高い。理由はやはり子どもの理解度の高まりと親の意識の高まりによると
いえよう。

自由意見の記入欄から主な意見を抜粋してみると、「最近少し英語の歌を口ずさむようになった」とか、「AppleやThank you, See youなど、簡単な単語を家でいうようになった」、「アクセントをつけて、英語で発音したときには驚いた」、「テレビの英語の番組に興味を持つてみるようになった」、「いつの間にかどこで覚えてきたのだろうといった英単語をいってみたい、オリンピックを見て外国の旗に興味を持ったりするようになった」などと、さまざまな意見が述べられ、子どもたちの興味・関心度が増していることを窺わしている。

質問7は、保護者が幼稚園での英語教育に関心がどれほどあるかについての問いである。選択肢はaの「とてもある」から、eの「全くない」までの5段階である。

全年齢(表7)から見てみると、aの「とてもある」が42.0%で、bの「少しある」が49.6%であった。aとbとの数値を合計すると、実に91.6%の保護者が多かれ少なかれ幼稚園の英語教育には関心を持っていることになる。年齢別の平均値をみても、年齢による差はほとんどみられ

表6 子どもの英語の関心度について

	a	b	c	d	e	合計	平均
3歳	2	8	9	4	0	23	3.35
4歳	3	31	9	0	2	45	3.73
5歳	6	19	5	2	1	33	3.82
6歳	7	8	2	2	0	19	4.05
合計	18	66	25	8	3	120	3.35
%	15.0	55.0	20.8	6.7	2.5	100	

表6-1 子どもの英語の関心度について 年齢グループ別

	a	b	c	d	e	合計	平均
3歳・4歳	5	39	18	4	2	68	3.6
%	7.4	57.4	26.5	5.9	2.9	100	
5歳・6歳	13	27	7	4	1	52	3.9
%	25.0	51.9	14.3	11.9	0.0	100	

なかった。保護者の英語の関心度は子どもの年齢とあまり関係が無いようだ。

eの英語に関心が「全くない」と応えた保護者は皆無であり、dの「あまりない」と応えた保護者も5人だけであった。

年齢別グループ(表7-1)による差も、3歳・4歳児グループが0.1だけ高いが、グループによる差はやはり表7同様にほとんど無いといえる。

自由記入欄から主な意見を取り上げてみると、「カリキュラムを見てみたい」とか、「母も英会話を習いたい」、「どんな指導や内容を行っているのか興味があるので、英語の参観日を設けてください」、「様々なことを体験させたいので、英語指導については支持している」などであった。

これらの意見のなかでも、とくに「英語の授業をぜひ参観したい」という意見が圧倒的に多くあった。保護者は英語については十分関心を持っているが、実際に、子ども達がどんな英語教育を受けているのか、自分の目で直に見ていないので、英語の授業を参観したいと思うのだろう。

表7 保護者の英語の関心度について

	a	b	c	d	e	合計	平均
3歳	7	14	1	1	0	23	4.17
4歳	21	22	2	0	0	45	4.42
5歳	16	13	1	3	0	33	4.27
6歳	6	10	1	1	0	18	4.17
合計	50	59	5	5	0	119	4.29
%	42.0	49.6	4.2	4.2	0.0	100	

表7-1 保護者の英語の関心度について 年齢グループ別

	a	b	c	d	e	合計	平均
3歳・4歳	28	36	3	1	0	68	4.34
%	41.2	52.9	4.4	1.5	0.0	100	
5歳・6歳	22	23	2	4	0	51	4.24
%	43.1	45.1	3.9	7.8	0.0	100	

表8 子どもに英語教育を受けさせたい理由

質問8は、子どもに英語の教育を受けさせたい理由である。選択肢は複数選択可であり、aの「外国で通用する人になって欲しいから」から、gの「その他」まで選択項目が7つ設けられている。

	a	b	c	d	e	f	g	合計
3歳	6	9	14	5	5	0	0	39
4歳	10	31	28	15	20	1	2	107
5歳	5	22	21	12	9	1	3	73
6歳	5	11	14	3	2	0	1	36
合計	26	73	77	35	36	2	6	255
%	10.2	28.6	30.2	13.7	14.1	0.8	2.4	100

全般的にみても、英語の教育を受けさせる理由で最も多かったのは(表6)、cの「学校で英語に抵抗感を持たないように」であり、2番目に多かったのはbの「英語は国際語だから」で、3番目は、eの「一般常識として必要だから」であった。この上位3つの理由を合わせてみると、72.9%であり、ほとんどの保護者は、学校においても、将来においても国際語としての英語の必要性を強く感じている。ちなみに4番目に多かったのは、dの「英語が好きになって進学・就職に有利になるように」であった。

表8-1の年齢別グループでみても、3・4歳グループと5・6歳グループの間に差はほ

とんど見られないが、eの「一般常識として必要だから」は3・4歳グループのほうが7%ほど高かった。年齢が小さいグループの保護者の方が、子どもに対してより大きな期待感を抱く傾向があるのかどうかは分からないが、そのような傾向がこの結果にも表れている。

自由記入欄を見てみると、「将来幅広く活動できるように」、「英会話ができれば、窓口が広がり、何かと役に立つ」、「母がまったく話せないので、子どもが話せるようになればと思っている」、「世界の人々や文化に興味を持って欲しい、視野を広く持って欲しい」、「何事においても知らないよりは知っている方が人生の楽しみや選択肢が広がると思う」などであった。

一般的にみて、子ども達がまだ幼稚園生ということもあり、将来の大学受験や就職のために、または外国での仕事や生活のために必要などという具体的な記述は全くなかったが、英語ができると世界のことに興味を持つようになり、人生の選択肢も広がるとの意見が多数あった。

質問9は、現在中学校や高等学校で教えている英語の問題は何だとおもいますか、という質問で、選択肢はaの「文法・読解中心の受験英語で実用的でない」からfの「その他」まで6つの選択肢があるが、選択肢は複数選択可である。

全般的（表9）にみてみると、一番多かったのが、aの選択肢で「文法・読解中心の受験英語で実用的でない」で、次に多かったのが、dの「学校で英語を始める年齢が遅い」。

3番目に多かったのは、bとcの項目で、どちらも15.6%であった。bは「アメリカやイギリスの先生が中心となって教えない」で、cは「子どもが英語を好きになれない」という内容である。

aが一番で、dが2番目に多かった理由としては、実用英語、つまり話せる英語、と大いに関係があると思われる。つまり、aの文法・読解中心というのは、英語を日本語に訳し、書いてある内容を理解するための方法であり、オーラル・コミュニケーションのようにリスニングや発音を重要視し、会話能力を高めるための方法ではない。また、dの「学校で英語を開始する年齢が遅い」ということは、子どもは語学の天才と一般的に信じられているように、耳が良く、英語の発音やリズムを

表8-1 子どもに英語教育を受けさせたい理由 年齢グループ別

	a	b	c	d	e	f	g	合計
3歳・4歳	16	40	42	20	25	1	2	146
%	11.0	27.4	28.8	13.7	17.1	0.7	1.4	100
5歳・6歳	10	33	35	15	11	1	4	109
%	9.2	30.3	32.1	13.8	10.1	0.9	3.7	100

表9 現在の学校英語の問題について

	a	b	c	d	e	f	合計
3歳	19	9	8	7	1	0	44
4歳	40	12	15	23	8	1	99
5歳	26	12	8	14	5	0	65
6歳	13	5	7	6	3	1	35
合計	98	38	38	50	17	2	243
%	40.3	15.6	15.6	20.6	7.0	0.8	100

自然に覚えやすい時期にあるのに、何故そのような適齢期に始めないで、中学生になってから始めるのかということであろう。

表9-1の年齢別グループにおける差はほとんど見られなかった。学校英

語の問題点については、子どもの英語というよりも、保護者を対象にした質問であったからかもしれない。保護者のなかには文法や読解をあれほど勉強したのに、実際に英語で仕事をすることや、外国人とコミュニケーションをとることに困難を感じている人も多い。それならば、語学の習得は早ければ早いほど効果があると一般に言われているのだから、子どもには早いうちから始めさせたほうが良いという考えからであろう。

自由記入欄からの意見を拾ってみると、「あれだけ勉強してもさっぱり身につかなかった。話せるようにならなければ意味がない」、「楽しくなければ、英語は覚えない」、「耳で覚えて英会話ができるようになることが最重要である」、「現在の学校英語の問題は教え方にあるのではなく、使う機会がないということである。英語を使う場面が常に与えられているなら、意欲や興味も大きくなる」などである。

これらの意見を総体的に見てみると、保護者が望んでいる英語は、実際に会話ができ、使える英語のことである。なぜ話せるようにならなかったかというと、学校で教えてきた英語が問題であると思う保護者もいれば、学校英語は問題ではなく、英語を日常的に使う環境が日本には少ないことであると考えている人もいる。

質問10は、幼稚園の英語教育、または教育方法についての自由記述であり、さまざまな意見が述べられている。パターン別にして、授業のあり方、授業方法、保護者の要望、その他に分けることにした。

最初の授業のあり方についての意見は、「英語が嫌いにならないような教育がいい」、「フォニックスをメインに考えた教育を」、「幼稚園では興味・関心を持つように、遊び感覚で楽しみ、親しめるようになればいい」、「耳から英語の音声を聞くだけで十分である」、「幼いので日本とは違う世界や言葉があることをなんとなく感じさせ、アルファベットに触れてくれれば十分である」、「英語の授業があった日は、英語の歌や単語を口ずさむので、BGMとして英語の歌などを園で流せば、復習にもなると思える」など英語に対して肯定的な意見が多かった。保護者の意見を概略的にまとめると、子ども達が英語を嫌いにならないように、興味をひかせ、楽しく感じさせること、及び、英語の発音やリスニング力を自然に習得させるような英語のあり方を願っているといえる。

表9-1 現在の学校英語の問題について 年齢グループ別

	a	b	c	d	e	f	合計
3歳と4歳	59	21	23	30	9	1	143
%	41.3	14.7	16.1	21.0	6.3	0.7	100.
5歳と6歳	39	17	15	20	8	1	100
%	39.0%	17.0	15.0	20.0	8.0	1.0	100

授業方法については、「アクティビティーを中心に」、「簡単な会話が自然にできるようにする」、「ネイティブの先生による指導を、そして日本人の先生はサポートをする2人1組の体制がいい」、「言葉ばかりでなく、見た目も関係があるので、違和感を抱かないように米国・英国との先生と子どもが触れ合う機会を持ちたい」、「段階的にカード、絵本を取り入れながら、歌を歌ったりして楽しく学べる英語」、「英語の歌も日本語の歌と同様に、毎日の保育の中に取り入れる」などであった。これらの意見をまとめると、アクティビティーや歌、簡単な会話などを楽しく学べれば、それだけでいいという意見もあれば、自然な発音、会話、外見なども考慮し、ネイティブによる指導が望ましいとの意見も多々あった。

保護者の要望については、「英語の授業を見てみないと何ともいえないので、保育参観で英語をしてはどうですか」、「もっと英語の時間を長くしてほしい」、「週に1度だけではなく、1回の授業を短くしてもいいから何回もして欲しい」、「できれば、ネイティブ・スピーカーによる指導をお願いしたい」などであった。とくに要望として多かったのは、保育参観で英語の授業を見てみたいという意見と、ネイティブ・スピーカーによる指導であった。

保育参観については、保護者にとって、幼稚園の英語は関心もあるし、また、自分の子がどんな授業を受けているのか直接自分の目で確かめたいと考えられる。ネイティブ・スピーカーについては、幼稚園の英語が主に読み書きでなく、音声中心になるので、ネイティブの方が先生としては相応しいと思っているのであろう。

その他の少数意見としては、「日常的な家庭での学習が大切であって週1回20分程度の授業では、やっても意味がない」、「英語も反対はしないが、その前に正しい日本語をきちんと教えて」、「現在の内容で子ども達の理解力にあっていると思う」、「英語に反対しているわけではないが、英語をすることによって、英語を覚えることよりも、そこから派生する楽しみや視野が広がればいいと思う」などであった。これらの意見は、つまり、幼稚園で英語の教育をしても、教育効果自体にはそれほど期待感があるわけでないが、子どもが英語を楽しんでいるのならばそれだけで十分であるといったことや、日本語教育のほうをより大切に考えたほうが良いのではないかとといった意見である。

5 まとめ

幼稚園の英語教育について、保護者を対象としたアンケート調査を実施したことにより、ほとんどの保護者、約80%が幼稚園における英語の必要性を認めていることが分かった。その理由としては、国際化時代を反映して、英語の必要性を感じているのと同時に、来年度から正規教科として始まる小学校の英語教育の影響も多いにあると思われる。

保護者の意見として、「英語に触れる場があることは良い」と回答しているものから、「小学校英語教育のために幼稚園から英語は必要である」とはっきりと回答しているのもあった。保護者

としては、幼児期に英語に触れさせることにより、英語に親しみを覚えていれば、小学校や中学校で英語を始めたときに、好きな科目のひとつになっていればいいし、少なくとも抵抗感を持たないようにできればいいとの考えであろう。

英語の開始時期についての質問で回答が最も多かった年齢は3～4歳児（年少クラス）からであり、回答者の78%を占めていた。幼稚園は3歳から始まり、またこの年齢になると日常会話がある程度理解し始めるので、3歳か4歳ぐらいが、英語を始めるのに適切な時期と思うのかもしれない。しかし、3歳児未満のほうがいいとの意見も、9%近くあった。このように回答した保護者は、早期教育にとっても熱心な人が多く、リスニング能力や発音のことなどを考えれば、英語の取り組みは、早ければ早いほど良いという意見であると思われる。

英語の授業時間については、現在の時間より多くして欲しいという回答は60%であった。保護者のなかには、「現在の週1回で15分～25分ほどの時間では、あまり意味がない」のでは、との意見もあった。また、英語が保育時間内に設けてあるから、この幼稚園を選択したと応えた親たちは、英語の時間や回数をもっと増やし、更なる英語の充実を望む声が多かった。

教育方法についての質問の回答については、歌ったり、踊ったり、遊びを中心とした英語と回答したのが51%であり、英会話を中心と応えたのが21%であった。多くの保護者の考えとしては、子どもが英語の時間で、英語の歌や音声を楽しく感じ取ってくれて、親しみを覚えればいいといったところである。また、保護者のなかには、外国人に対して違和感を持たないことや英語によるコミュニケーションの必要性から、「出来ればネイティブスピーカーによる英語の授業にして欲しい」などの回答も少なからずあった。

英語についての興味や関心については、幼稚園で英語指導を実施している理由によるのか、子ども達も保護者も興味や関心が高いことが明らかとなった。子ども達の特徴としては年齢が上がるにつれ、興味・関心度も高まってくるということである。英語の理解度が増すにつれて、興味や関心の度合いも高まってくるともいえよう。保護者のなかには自分の子どもが英語の歌を口ずさんだり、アクセントを付けた英語で話したりしたとき、驚いたり、感激した様子などの感想を述べたものもあった。

保護者の興味や関心度の高さは、子どもの年齢差とは相関関係がなかったが、今の国際化時代を反映してか、やはり全般的に高いことが明らかになった。また、興味や関心はあるものの、子ども達がどのような英語の指導を受けているのを実際に見ていないため、英語の授業の保育参観を要望する声が多かった。

子どもに幼稚園で英語の教育を受けさせたい理由について、最も多かったのは「学校で英語に抵抗感をもたないように」であり、次に多かったのは「英語は国際語だから」、そして「一般常識として必要だから」が続いた。

これらの回答から、保護者はグローバル化した現代において、または、小学校で英語が始まる

ことを意識してか、幼児期から英語に触れさせ、楽しみ、親しむことを期待し、小学校入学後はスムーズに英語の授業に入れることを期待している様子が窺える。幼児期から英語を始めることにより、英語を好きになってくれれば一番良いのであろうが、少なくとも英語に対して抵抗感や嫌悪感は抱いて欲しくないと考えているのだろう。自由記述の回答でも「英語が嫌いにならないように」や「遊び感覚で楽しみ、親しむような授業」などといった意見が述べられている。

幼児英語について保護者がどのように考えていて、どんな授業を期待しているかということについては、ほとんどの保護者は幼稚園での英語は必要だと感じており、必要ないと考えた保護者はいなかった。授業に関しては、現在行っている時間や回数をもっと増やして欲しいとの要望や、ネイティブスピーカーを加えた英語の指導を希望している声も高かった。また、その方法としては、遊び感覚で英語の歌を歌ったり、いろいろなアクティビティーをしたりしながら、子どもが英語を楽しめるようにしてほしいといった回答が最も多く、今までの学校英語のような実用的でないと言われている指導方法を望む回答は少なかったといえる。ある保護者は幼稚園の英語のありかたについて次のように述べている。

「とにかく子どもには英語を好きになってもらいたい。子どもがお腹の中にいたときから、毎日英語の歌のCDを聞かせていた。3歳になったばかりの頃、車の中でいつの間にか、曲に合わせて、あの頃に聞いていた歌を口ずさんでいることに気付いたときはとても驚いた。できれば英語を日本語と同じように自然と身につけて行って欲しい。早期から日本語と同じように学習するという環境の中で英語に対する嫌悪感をなくし、日本語と同じようにいつの間にか話せるようになっていくというような教育方法であればと願うばかりである。」

このように、英語が日本語同様に自然に子どもに身につけてくれればと願っている親も近年多くなってきている。そのためか、現在ではバイリンガルを目指し、英語で保育を行う環境としてのプリスクールもしくはインターナショナル保育・幼稚園が都市部を中心に次々と設立されている。しかしながら、これらの保育施設は無認可であるため、教育要領や保育指針に沿った教育が行われているわけではなく、保育者も資格を必要としないので、英語環境は整ってはいるものの、必ずしも保育環境が整っているとはいえない。

附属幼稚園での英語は、幼児期の特徴を考え、全身で感じ取る体験活動を中心とし、英語を勉強するというよりも、英語で遊び、楽しむことを中心とし、遊びの中から自然に英語に親しみを感じ、小学校での英語教育にスムーズに入っていけることを目標にしている。

今回のアンケート調査においても、時間とネイティブスピーカーの問題を除けば、おおむね幼稚園での英語の指導が多くの保護者に支持されていることを認識した。これからの課題としては、約30人のクラスで英語を指導しているので、いかにして全ての子どもに英語活動を楽しませるか

ということ、及び、園の年間行事や保育を取り入れ、園の教育活動と連携させ、活発な授業をどう進めていくかということにあらう。

参考文献

1. 小学校学習指導要領解説 外国語活動編 文部科学省 平成20年8月
2. 文部科学省 小学校の教育課程の枠組みについて (検討素案)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/029/siryo/07090310/003.htm
3. 英語教育ニュース <http://www.eigokyoikunews.com/news/20080303/10.shtml>
4. 朝日新聞 (2007年9月11日)
5. 読売新聞 (2008年4月4日)
6. Benesse教育情報サイト 小学校英語はどこへ向かうのか(6)
<http://benesse.jp/blog/20080325/p2.html>
7. 文部科学省「英語が使える日本人」のための行動育成計画
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/15/03/03033102.pdf
8. 文部科学省「韓国における小学校英語教育の現状と課題」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/015/siryo/05120501/s004_1.pdf

幼稚園の英語教育に関するアンケート

つくば国際短期大学附属幼稚園

英語担当 中山 千章

現在、本年では週に1回（15分～20分程）、幼児向けの英語のクラスが行なわれています。年齢は基本的に3歳以上で、これ以下の年齢児には英語を教えていません。英語のクラスの目的は英語の勉強というよりは、音楽や絵本、体育などを楽しむと同様に英語を英語の歌や絵カード、絵本などを通して楽しんでもらうことを主として行なっています。

今回のアンケートの目的は、保護者の皆様が幼稚園における①英語をどのように考えておられるかということを理解したいのと、②英語のクラスを継続するに当たって、今後の英語のクラスをどのように運営していったら良いかということの把握にあります。

このアンケートの結果を踏まえて、今後の授業改善の参考にしていきたいと思っておりますので、ご協力の程宜しくお願いします。

アンケートの回答は、記号 a b c d e の中から一つ選び、○で囲んでください。ただし、複数選択可はいくつ選んでも結構です。自由記入欄には、何かご意見が御座いましたら、ご記入お願いいたします。

質問1 あなたのお子さまの年齢は、現在何歳ですか？ （ ） 歳

質問2 幼稚園の英語の授業の必要性について

- a 必要である b どちらかといえば必要 c どちらでもよい
d どちらかといえば必要ない e 必要ない

自由記入欄

質問3 幼稚園児の英語の授業の開始時期について

- a 3歳～4歳児から b 4歳～5歳児から c 5歳～6歳児から d 3歳未満から
e 保育園・幼稚園では英語は始めないほうがよい

自由記入欄

質問4 幼稚園の英語の授業時間について〔現在は週に1回（15分～25分程度）〕

- a 少ないので多くしたほうがよい b 今よりは幾分多いほうが良い
c 今のままでよい d 今よりは幾分少ないほうが良い e 無いほうが良い

自由記入欄

質問5 幼稚園ではどんな英語教育を子どもたちにしたほうが良いですか。（複数選択可）

- a 歌ったり、踊ったり、遊びを中心とした英語 b 英会話を中心とした英語
c 日本語を使わないで教える英語 d アルファベットや基礎単語を教える英語
e 教えないほうが良い

自由記入欄

質問6 幼稚園で英語の勉強を始めてからお子様は英語や外国に興味・関心を持つようになりましたか。

- a とてもそう思う b 少しそう思う c 分からない d そうとは思わない
e 全く思わない

自由記入欄

質問7 あなたは幼稚園で行なっているお子さんの英語教育に興味・関心がありますか。

- a とてもある b 少しある c 分からない d あまりない e 全くない

自由記入欄

質問8 どうして子どもに英語の教育を受けさせたいと思いますか。(複数選択可)

- a 外国で通用する人になって欲しいから
- b 英語は国際語だから
- c 学校で英語に抵抗感を持たないように
- d 英語が好きになって、進学・就職に有利になるように
- e 一般常識として必要だから
- f 受けさせたくない
- g その他 ()

自由記入欄

質問9 現在の学校英語(中学・高校での英語)の問題は何だと思いますか。(複数選択可)

- a 文法・読解中心の受験英語で実用的でない
- b アメリカやイギリスの先生が中心となって教えない
- c 子どもが英語を好きになれない
- d 学校教育で英語を始める年齢が遅い
- e 英語の年間の授業数が少ない
- g その他 ()

自由記入欄

質問10 幼稚園の英語教育、または教育方法について何かお考えがありましたら、ぜひお聞かせください。

自由記入欄

ご協力、ありがとうございました。

このアンケートによる結果は、今後の幼稚園における英語の授業改善の参考とさせていただきます。